

言語情報処理研究Ⅱ

2単位 (選択) 3年 (前期)

中島 浩二・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 言語コーパスとは何か理解する。また、コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等)、Unix コマンド、プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける。

【授業概要】 コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】 Perl, コーパス言語学

【関連科目】 『情報創生演習』 (1.0)

【履修上の注意】 「情報創生演習」 (後期開講, 3年生以上対象) を受講する予定のものは、この科目を必ず受講すること。「情報創生演習」では、この授業で学んだ知識や技術の応用発展を扱う。

【到達目標】 コンピュータ言語 Perl を使って、言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し、自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする。また、文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより、言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的スキルを身につける。

【授業計画】

1. Unix 概論
2. Perl 概論
3. スカラー変数
4. 演算子
5. 制御構造 (1)
6. 制御構造 (2)
7. 配列操作
8. ハッシュ操作
9. 正規表現の基礎
10. 正規表現を使った言語コーパス検索
11. 関数
12. ファイル操作
13. 応用プログラム作成 (文字列の加工・頻度表の作成)
14. 応用プログラム作成 (KWIC 出力)
15. 定期試験
16. 総括

【成績評価】 授業への参加度および定期試験による。

【再試験】 なし

【教科書】 「独習 Perl 第2版」 (武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220272>

【連絡先】

⇒ 中島 (総合科学部 1号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)